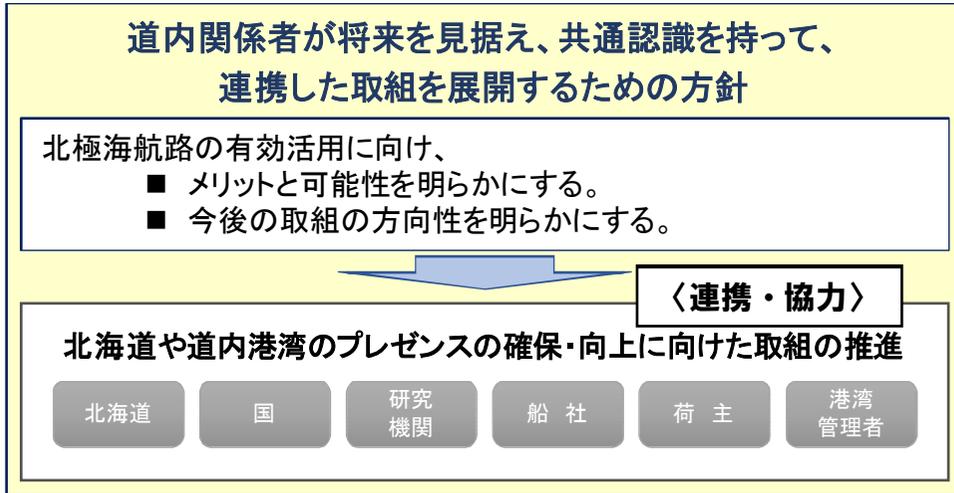


I 「北極海航路の利活用に向けた方針」の策定にあたって

策定の趣旨

- 本道の強みを最大限活かして海外の成長力を取り込み、地域経済の活性化に結びつけていくことが必要
- 東アジアと欧州を結ぶ新たな商業航路である「北極海航路」の活用は活性化策の一つとして期待



北極海航路の航行ルール

- 航行船舶には国際機関やロシアが定めた海氷域の安全航行や環境保護に関する技術基準やルールが適用

北極圏の魅力

- 北極海航路の商業利用や北極圏の天然資源開発が進展
- 北極海の観光クルーズは増加傾向

我が国における北極海航路の利活用の動き

- 国は『海洋基本計画』の考え方を踏まえ、「我が国の北極政策」を策定。北極評議会のオブザーバー資格を取得するとともに、「関係省庁の連絡会議」や「官民連携協議会」を設置し総合的、計画的に施策を推進
- 海洋政策研究所は、北極海航路の実証航海試験や北極海に関する政策提言などに取り組む
- 研究機関や大学において、航路活用に関する様々な調査・観測を実施

道内でのこれまでの主な取組

[道]

- 航路の利用状況等の最新情報の収集や活用に向けた気運の醸成 [北海道開発局]

- 北極海航路における道内港湾のポテンシャルを検討 [港湾管理者]

- 港湾の特性を活かした航路の活用可能性の調査・検討 [経済団体]

- 道商連: 「北海道成長戦略ビジョン」の中で、道内港湾や北極海航路を活用した政策を提案
経済同友会: 道内港湾の可能性を調査・研究する「北極海航路研究ワーキング」を設置

[学識者等]

- 学識者、行政機関による研究チームでは、北海道が志向すべき航路活用のシナリオを研究

II 北極海航路に関する現状

北極海航路 (Northern Sea Route :NSR) とは

- 欧州からロシア沿岸に沿ってベーリング海峡に至る「北東航路」のうち、カラゲート海峡からベーリング海峡までの約4,800kmの区間
- 近年、北極海の海氷減少により商業利用が可能に
- 航路活用により、アジアと北欧や欧州ロシアの間を最短の海上ルートで結び、既存のスエズ運河ルートと比較して概ね4割の距離短縮
- 既存のルート不安定要因を回避する代替輸送ルートとなる効果も

北極海航路の航行実績

- 2010年以降、バルク貨物の輸送を中心に、航行数が増加したものの、海運市況等の影響により2014年、2015年は減少
- 我が国へもLNGや石油製品の輸送船などが北極海航路を利用
- 中国、韓国などに向かう船舶は、宗谷海峡、津軽海峡を通過

III 北海道の優位性

地理的優位性

東アジアの新たな玄関口に

- 発展著しいアジア、北極海航路の出入り口に近接

拠点機能の集積

物流機能の高度化、人流の拡大

- 港湾、空港の充実、高規格幹線道路網の進展

産業の集積

北極海航路を利用する貨物需要に対応

- 道内の主要港湾の周辺には、食産業、ものづくり産業が集積

研究機関の集積

我が国の北極圏研究をリード

- 積雪寒冷地を活かし、北極圏フィールドの調査研究機関が充実

IV 利活用における北海道の可能性

原材料やエネルギー資源の安定的な調達

- 供給源の多様化や調達価格の抑制、代替ルートとしての活用

コンテナ航路の中継拠点

- 耐氷船と通常の貨物船の接続や北極海航路と北米航路などの中継

北極海観光クルーズのアプローチ拠点

- 北極海までの観光クルーズの発着地、寄港地

航行船舶の支援拠点

- 北極海航行船舶の修理、避難の受入基地

北極圏観測船の拠点

- 国際的な極地研究・観測及び北極観測船の基地

船員訓練、養成の拠点

- 海氷域での航行技術を身につけた船員等の養成フィールド



新たな産業の創出や雇用の増大

V 今後の取組の方向性

北極海航路や北極圏に関する情報収集

- 商業利用のための環境整備や荷主・船社の動向などの把握

欧州側拠点をめざす地域との交流

- ロシア・ムルマンスク州など欧州側地域との官民による交流促進

欧州と北海道間の新たなルートによるコンテナ輸送

- 北海道・欧州間のビジネスモデル開拓の可能性の調査・検討

北極圏のエネルギー資源などバルク貨物輸送

- 資源調達に関わる荷主企業などとの情報交換などによる連携強化

航路利活用に向けた我が国の「北の拠点」

- 本道から北極海への観光クルーズの可能性の検討
- 航行船舶への支援方法や設備等についての把握・検討
- 北極圏の観測研究体制の構築に向けた道内港湾の役割の検討
- 氷海航行技術の訓練フィールドとしての役割や可能性の検討

VI 「北極海航路の利活用に向けた方針」の推進にあたって

道の取り組み

- 『北海道「北極海航路」調査研究会』を活用し、最新情報の収集や関係者間の情報共有、道民の気運醸成
- ロシア連邦ムルマンスク州をはじめとする欧州側地域との協力体制の構築に向け、相互理解を深めるための交流促進
- 航路が本道に及ぼす効果の把握など道民の理解を得る取組の促進と、各港湾独自の取組が促進される環境づくり
- 航路の利活用に向けた取組や本道周辺海域の環境・安全対策の推進に必要な予算などについて国に要望

関係者との連携

[国、研究機関]

- 道、市町村(港湾管理者)や民間企業などによる取組への支援や助言

[市町村、港湾管理者]

- 活用の拠点となる港湾やその周辺地域の機能充実に向けた取組と、地域交通やまちづくりとの一体的な展開

[民間企業等]

- 航路選択の可能性や運航環境・利用動向などの積極的な情報発信